

新コーナー紹介

逗子市まちづくり課では、逗子の景観をより身近なものに感じ、共有していくために、また、「逗子ステキ発見！景観フォトコンテスト」など逗子の景観に関するイベント情報等のお知らせ広報紙として「逗子の景観まちづくり『瓦版』」を月1～2回程度発行しています。

市民活動スペースに『瓦版』コーナーを新設しましたので、ご覧ください！フォトコンテスト作品募集の案内も掲示しています。



25年度

ロッカー&レターケース

使用団体募集します！

募集期間は2月1日(金)～28日(木)

ロッカー

大サイズ：18個
使用料金：4,200円/年
小サイズ：30個
使用料金：2,400円/年



レターケース

引出しサイズ：
A4判が折らずに入ります。高さ69mm
使用料金：無料
個数：72個



詳細は市民交流センターホームページ、掲示板、窓口をご覧ください！

2月 フールセンターカレンダー

※開館時間は、9時～21時です。

		プール専用使用コース		交流センター
日	曜日	10～12時	13～15時	会議室関連
1	金			3月分先着予約開始
2	土		2コース	
3	日			
4	月		2コース	
5	火	休館日		
6	水	2コース		4月分抽選申込受付期間
7	木		2コース	
8	金			
9	土		2コース	
10	日			
11	月		2コース	
12	火		2コース	
13	水	2コース		
14	木		2コース	
15	金			
16	土		2コース	
17	日			
18	月		2コース (～15:40)	
19	火	休館日		
20	水	2コース		4月分抽選結果発表
21	木		2コース	当選確定手続期間
22	金			
23	土		2コース	
24	日			
25	月		2コース	
26	火		2コース	
27	水	2コース		
28	木		2コース	
3/1	金	2コース		4月分先着予約開始
2	土		2コース	
3	日			
4	月		2コース	
5	火	休館日		

- ・専用使用がある時間帯は3コースのみの使用となります。
- ・小学校3年生以下は、保護者などの付添が必要です。(付添1人につき2人まで)



発行：市民交流センター Vol.32(平成25年1月20日)



陸前高田市の子どもたちに本を

2011年3月11日の地震で、逗子市立図書館では500冊ほどの図書が落下したり、天井から水が漏れ、その後も計画停電のために、開館時間がその日によって違うという不安定な図書館サービスを続けていました。

そのような状況の時に、「東北地方太平洋沖地震に係る岩手県内公立図書館等の被害概況」で、陸前高田市立図書館の人的被害として『全員行方不明または死亡』、建物は『壊滅状態』、備品は『把握不能』と知りました。6人の職員全員と8万冊の蔵書を津波が奪ってしまったのです。

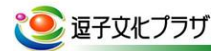
陸前高田市としては、生活の立て直しにつながるインフラの整備がまず優先されるのは当然のことでした。混乱も収まっていない時でしたが、図書館や出版関係者などから、子どもたちのために本を届けよう、図書館を何とかしようという運動が全国に広がり、全国からたくさんのお本が届けられました。

逗子市でも、市民交流センターと図書館との協働で、陸前高田に本を寄贈するプロジェクトを立ち上げました。大型絵本購入の募金も交流センター窓口で受け付け、「ダンゴムシみつけたよ」「おおきなかぶ」など、計5冊の読み聞かせ本(50×40cm)を図書館で選定し、購入。そのまま使用できるように、図書館職員ですべての本にコーティングをしました。

装備の終わった本は2012年5月下旬、市長が届けました。市民の皆さんのご協力に、あらためて感謝しております。ありがとうございました。



逗子市立図書館 館長 小川 俊彦



市民交流センター

〒249-0006 神奈川県逗子市逗子 4-2-11
TEL 046-872-3001
FAX 046-872-3003
kouryu@city.zushi.kanagawa.jp

つながる

被災地のあの人、今!?

2011年からずっと、宮城、岩手の沿岸地域の被災者支援に関わってきたMさん。彼女が最近、気になっているのは、ボランティアの「引き際」のことだといいます。外部のボランティアに頼った活動があまり長期にわたると、被災地の人たちだけで自立してやっていくのが、難しくなってくる。外からやってきたボランティアは、どんなに頑張っても、所詮は「外の人」でしかない。現地で結婚して居を構え、そこで働いて収入を得ながら、町の復興にずっと関わっていくというのならば、そうでないなら、あまり長くいるべきではない、と彼女は言います。現地では、かつて支援活動の成功例としてマスコミなどで紹介された活動が、最近、ボランティアが来なくなって、行き詰まっている例をいくつも見聞きするそうです。

Mさんと話しているうちに、「支援のその後」を見に行くツアーをやるといいんじゃないかという話になりました。

「応援に行こう」というツアーはたくさんありますが、「応援した後、どうなったか、見に行こう」というツアーは、聞いたことがありません。でも、それは、本当はとても大事なことなんじゃないかと。支援を受けた地元の人たちは、その後、自分たちの力でうまくやっつけているのか。「忘れない、つなげていく」ということの意味を、もう一度、噛み締めなければと思います。

きのしたよしひと
市民協働コーディネーター 木下理仁



ボランティアセンター便利

「ご近所ひろば」大盛況!

逗子地区の見守りサポーターを中心に毎月ご近所のふれあいのために行っている「ご近所ひろば」。新年最初は、成人式のお祝いをおこなった地域交流のために、もちつき大会を行いました。フェスティバルパークで開催予定でしたが、雪のため、逗子小学校のランチルームで開催しました。次回は2月26日10時～12時、交流センター隣の山上輪業スペースで開催します。



今年初の雪かき



つきたてのおもちも大勢汁もあったかい♪

開設日・時間：月曜日～金曜日 9時～17時
(交流センター休館日・祝日は除く)

連絡先：電話 046-873-8037
FAX 046-872-2519
Eメール vc@zushi-shakyo.com



奇跡の一本松保存募金



お願い

7万本の松原からたった一本、津波に耐えた一本松。私たちに希望を与えてくれた一本松は、もはや自立が出来ませんが、復興の象徴として新しい形で残していきたいのです。みなさんの協力をお願いします。岩手県陸前高田市長 戸羽 太

交流センター窓口に募金箱を設けています。皆さまのご協力をお願いいたします。

トーク&スライドショー

写真で届ける「イシノマキにいた時間」

2月12日(火)18時~20時
逗子文化プラザ ささなみホール

トーク 福島カツシゲさん(俳優)& 石倉良信さん(俳優)

ゲスト 石森裕治さん(宮城県漁業協同組合石巻市 東部支所運営委員長。荒波牡蠣復活委員会会長)

- 受講料: 無料
- 定員: 先着 100名
- 申込み・問合せ: 2月1日(金)9:00 から 逗子市ホームページ電子申請・届出、電話、ファックス、電子メールで または直接逗子市教育委員会社会教育課 (TEL:046-872-8153)へ

講座

想定を超える災害にどう備えるか
~大津波から生き抜いた釜石市の子どもたちに学ぶ~

3月3日(日)14時~16時
逗子小学校 体育館

●同時開催 防災関連用品の展示・販売

講師 片田 敏孝氏

(群馬大学広域首都圏防災研究センター長・教授)

- 受講料: 無料
- 定員: 先着 250名
- 持ち物: 上履き、靴を入れるビニール袋等
- 申込み・問合せ: 2月1日(金)9:00 から 逗子市ホームページ電子申請・届出、電話、ファックス、電子メールで または直接逗子市経営企画部 防災課(内337)、逗子市教育委員会 社会教育課(内518)へ

3・11 逗子 忘れない、つなげていく

「3・11応援・防災ひろば」 出店団体紹介♪ ・ ・ 次回は2月11日です ・ ・

継続は力なり!



ちーむ麻の葉・鎌倉グループ 「手を動かしていれば気が紛れる」この一言から始まったプロジェクト

「半歩前進プロジェクトを立ち上げたの。」2011年11月、陸前高田の被災者からの電話。助かった命も、過酷な日常に晒されて希望を失う人が後を絶たない現地の様子と、それを止めたいという願いを感じ取りました。

陸前高田のかあちゃん達から届いた寄せ書き

ドレス
タオル
アクリル
タワシ



小嶋さん 平野さん 福本さん



現地スタッフの 大和田さん

クリアホルダー (奇跡の一本松)

以前から手作り衣料品を提供する支援をしていた私達洋裁グループは材料や資金を送り、現地スタッフが仮設住宅集会所で講習会を開き、被災者に交流の場と手仕事の提供をして、ドレスタオルやアクリルエコタワシが生まれました。経費を除いて売上は製作者に還元されます。

心をこめた製品を、大勢の方の手に取っていただきたく、イベント・バザーなどに参加して販売の場を広げています。どうぞご協力ください。(平野由美子)



シフォンケーキ (陸前高田の柚子を使っています)

「いこカー」は CAR(車)と「カ」(チカラ)の2つの意味です。

ぼちぼちいこカー



2011年4月から毎月、福島県南相馬市でボランティア活動を行なっています。ロータリークラブで留学の経験を持つ仲間3人の「何かできないか」という思いから誕生しました。首都圏から幅広い年代の参加者が集まり、逗子からレンタカーで出発しています。

現在は仮設住宅の集会所でマッサージやクラフト作りのイベントを開催し、住民が交流できる「交流ひろば」を作っています。地域コミュニティの離散や住民同士のコミュニケーション不足により、孤独な思いをされる被災地の方は少なくありません。私たちは「家族」をテーマとし、現地の方々が笑顔で挨拶を交せるような環境作りを目指して、活動を継続していきます。(小田まむや)

HP: <http://bochiboichiikocar.jimdo.com/>



小田まむやさん



バス車内



肩もみコーナー



現地での鍋

(福) 湘南の凧mai!えるしい

なぎさ橋にある“逗子みやげ処”の看板が目印の「mai!えるしい」は、社会福祉法人湘南の凧が運営している「障がい者の自立と社会参加の促進を目的とする就労支援事業所」です。

1階が店舗・製菓工房、2階が給食センターとして法人の給食を作っています。一人ひとりの「働きたい」という思いを実現し、喜びに、そして住み慣れた地域で就職できるようサポートしていく施設です。

製造だけではなく販売にも力を入れており、被災地応援の販売は陸前高田市2件、山田町1件で、継続して応援できるよう取り組んでいます。

逗子海岸のように青いポロシャツが目印です!見かけた際は、ぜひ声をかけてください。(庄子さなえ)



販売スタッフの皆さん(後列左が庄子さん)



売り切れ続出でした♪

社会福祉協議会です!

瓦Re:KEYHOLDER(ガレキーホルダー)

もよろしくお祈りします!



ちょっと気になる...ココ!

ここでは、市民の方からのいろいろな情報を提供していきます♪

逗子マリーナ

小坪にある複合施設 (1971年6月開業)

鎌倉時代から続く市内唯一の漁港がある町、小坪。その5丁目には、「逗子マリーナ」があります。

まるで地中海のリゾート地にでも来たかのような(実際には行ったことはありませんが...) パームツリーの大群が植えられたこの土地、実は鎌倉霊園造成工事の残土を用いて埋め立てられています。

現在では結婚式場や毎年夏に開催されるフェスティバル形式のコンサートで有名になりつつあります。個人的に「逗子マリーナ」から連想されるキーワードは「ユースミン/ボーリング場/川端康成」ですが...(汗)。

空気が澄んでいる今の時期、天気の良い日は相模湾、江ノ島越しに雄大な富士の山を眺望することも出来ます。(小坪 斎田)

交通: JR 横須賀線逗子駅、京浜急行新逗子駅北口より、京浜急行バス小坪経由鎌倉駅行きにて小坪海岸下車、徒歩5分。

